

シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策 (10) —アカアシノミゾウムシ—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

ケヤキは、街路樹、屋敷林、公園等の重要な構成種として植栽されており、多くの県民にとって親しみのある樹木です。新緑の頃や黄葉の頃は非常に綺麗であり、多くの県民の目を楽しませてくれます。このようにケヤキは緑化木として有名ですが、林業的観点からみても非常に大切な樹木で、材が赤っぽい場合には高価格で取引されます。もしも材に牡丹雪のような模様があれば、その量や形によって価格はさらに高くなります。岐阜のケヤキ専門の市場では、厚さ 5cm 程度で畳1畳分に多数の牡丹雪の模様がある材が1千万円を超える価格で取引されていました。

このように多くの県民に親しまれているケヤキにも弱点があり、7月下旬頃に遠くからみると樹冠全体が真っ赤になり落葉してしまい、枯れたのではないかと思われる現象が見られる年があります。これは葉を食害する小さな虫「アカアシノミゾウムシ」による被害です。

どのような虫か

成虫は褐色の小さな甲虫で、その大きさは2.5~3mm です。飛翔能力は当然ありますが、歩行ではノミと同じように飛び跳ねます。そのため、このような名前がついたものと思われます。1年1回の発生で、成虫で越冬します。越冬した成虫は、ケヤキの新葉の先端部に卵を産み込みます。卵からふ化した幼虫は葉肉を食害し(写真-1の左下)、5月になると食害した葉の内部で老熟幼虫(写真-1の右上)から蛹になり、5月中旬から6月下旬に成虫になって外界に脱出します。

脱出した成虫は秋までケヤキの葉を網の目状に食害します(写真-2)。そのため、葉が季節はずれの汚い「黄葉」現象となり、著しい場合には落葉し、葉が全くなくなります。これ

は枯れたわけではなく、1ヶ月もすれば新しい葉が展開し、丸坊主になったのが嘘のように元の状態に戻ります。

対応策

この虫に対してケヤキは非常に強く、このような被害が数年続いた場合にも枯れることはほとんどありません。希に枯れるケヤキも出現しますが、その原因はケヤキ自体が他の要因で衰弱していたものと思われます。そのため、薬剤を用いた防除は行わないのが普通です。



写真-1 幼虫による食害(左下の写真)、右上の写真は老熟幼虫(右上の写真)



写真-2 成虫による食害